

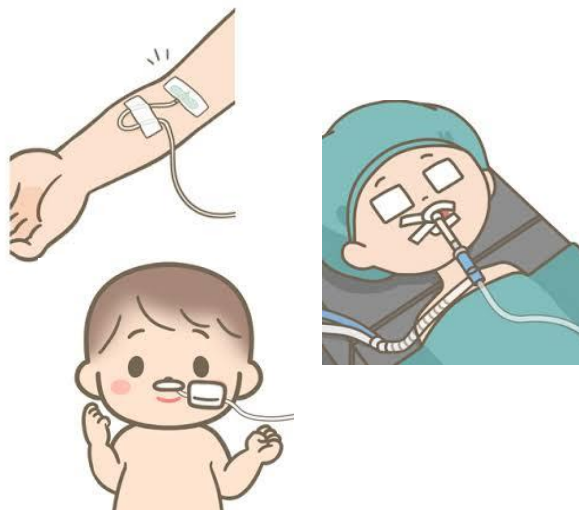
テーマ：皮膚障害を起こさず安全に医療器具を固定したい

■ 背景

医療器具を患者の身体に固定する際にはテープが用いられることが多い。留置針の固定、尿カテーテル、気管挿管、鼻チューブなど様々な機会にテープ固定がされている。これらはしっかり固定しないと用をなさないだけでなく、危険な場合もある。その一方で医療用テープは粘着力が強いため、皮膚剥離に伴う障害が起こりやすい。

皮膚表皮はテープで容易に乖離するため、これが引き金となって感染症を引き起こすリスクがある。高齢者や抗癌剤治療中の患者は皮膚が脆弱であるため、顕著である。

また、テープの粘着剤がアレルギーとなり、かぶれ・痒みを起こす人は多い。



■ 現状の課題

例えば下記の課題がある

- ・テープが固着している場合、剥す際に生食で濡らすと有効な事がある
- ・ワセリンをガーゼに塗布した後に患部を覆い、テープで固定することは有用だが、手間がかかる事とガーゼが癒着する恐れがある
- ・ワセリンの代わりにアズノール軟膏を使用することもあるが、同様の課題がある
- ・トレックスガーゼで患部を覆った上でテープによる固定は有用だがトレックスガーゼはとても高価である



■ 機能アイデア例

- ・テープ部分に保湿剤などを予め含有するもの
- ・火傷、褥瘡、傷口などの障害がある部位に対しても安全に使えるもの
- ・電磁力など粘着剤以外の力でテープを固定できるもの

■ 市場性

世界の医療用テープ市場は年率3.8%で成長し、2031年には38億ドル規模になるとの予測がある。高齢化に伴う癌や外傷事故などの手術件数の増加によりテープ市場は拡大が予想される。

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>